

【3月の気象】

- ▷ この時期は、日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過して天気が周期的に変化することが多く、高気圧に覆われて晴れる日もあれば、低気圧の通過で雨をもたらした後、冬型の気圧配置となり真冬並の寒さとなることもあります。
- ▷ 晩霜により農作物への被害が懸念されるとき、気象台では前日に霜注意報を発表します。霜注意報の運用開始時期は、その年の気象経過や農作物の状況等を考慮する必要があることから、毎年、農業関係機関と調整して決定します。今年は、3月1日の降霜を対象に2月28日から運用を開始します。

農業に影響するこの時期の気象と天候

現象の種類	状況や要因	注意すべき事項	着目してほしい情報
晩霜	高気圧に覆われた朝の放射冷却	農作物の管理	霜注意報
乾燥	高気圧に覆われて空気が乾燥	火の取り扱い	乾燥注意報
強風	低気圧の発達などにより 気圧の傾きが増大	農業施設の管理 火の取り扱い	気象情報 、 強風注意報 、 暴風警報
落雷 竜巻・突風 降ひょう	寒冷前線近傍、上空寒気により 大気の状態が不安定	農作物の管理 安全な場所へ避難	気象情報 、 雷注意報 、 竜巻注意情報 、 レーダー・ナキャスト（降水・雷・竜巻）

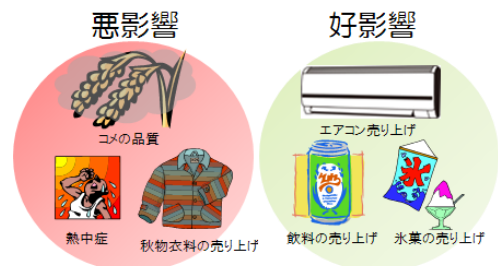
【気象用語】「気候リスク」とは

まず、「気候」とは、ある程度長い期間における気温や降水量などの大気の状態のことをいいます。

大雨や台風など短い時間に大きな被害をもたらす現象だけでなく、季節はずれの高温、低温、少雨、多雨、日照不足といった平年との隔たりの大きい天候が長期間続いたり、極端な暖冬や冷夏のような異常気象となる場合には、生活や産業に特に大きな影響をもたらします。その影響が発生する可能性を「気候リスク」といいます。地球温暖化等の気候変動により異常気象などの発生が増加しているため、気候リスクは増大しているといえます。

気候リスク = (異常気象などの起こる可能性) × (影響の大きさ)

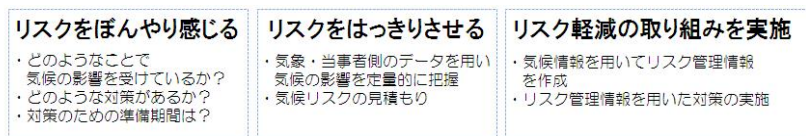
- 気候リスクとは"気候によって影響を受ける可能性"のこと
- 気候リスクは当事者によって異なる
- 温暖化等の気候変動により気候リスクは増大している



過去の気象観測の統計値や季節予報などの気候情報を用いて気候リスクを把握し、対応することを「[気候リスク管理](#)」といいます。

気候リスクを軽減するためには左図の3つのプロセスが有効です。リスクは当事者によって様々ですがこのプロセスは同じです。

「どのようなことで気候の影響を受けているのか」「その影響に対する対策はあるのか」「対策するにはどの程度の準備期間が必要か」を考えることで、気候リスクを軽減できる可能性が見えてきます。まずは、身の回りの[気候リスクを認識](#)することが必要です。



こちらのリンクもご覧ください⇒ [気候リスクの評価](#) [気候リスクへの対応](#)